



中国・四国エリア初の「がん陽子線治療」を開始。

患者さんにやさしく寄り添う医療を追求

津山中央病院は、岡山県北部地域で唯一の3次救急を担う総合病院。地域がん診療連携拠点病院でもあり、2016年春には全国で11番目、中国・四国エリアでは初となる「がん陽子線治療」を開始する予定で、地域住民からは多くの期待が寄せられている。



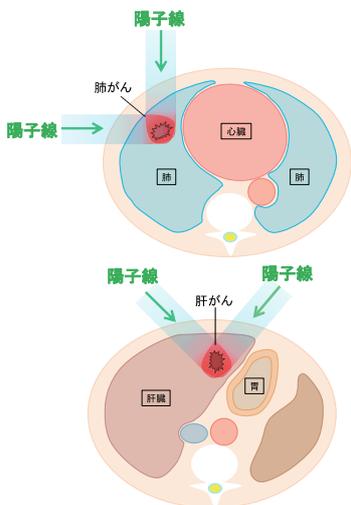
放射線治療センター
副センター長 陽子線部門
脇 隆博

わき・たかひろ／2004年岡山大学医学部卒業。岡山大学病院、岡山医療センターを経て、2014年1月より2015年9月まで、兵庫県立粒子線医療センターにて、陽子線・重粒子線治療に携わる。2015年10月より現職。

がんの陽子線治療に 総合病院の強みを活かす

陽子線治療とはどのようなものなのか。同院放射線治療センターの副センター長で陽子線部門を担当する脇隆博先生は、次のように語る。

「陽子とは水素の原子核のことで、プラスの電気を帯びた粒子です。この粒子を真空中で加速して患部に照射し、がん細胞を破壊するのが陽子線治療です。放射線治療の一種とされていますが、一般的な放射線治療に用いられるx線



陽子線は病変の深さで止まり、奥に突き抜けない

陽子線は病変の深さで止まり、奥に突き抜けない
「今後は、高齢の患者さんが増加すると思われ

陽子線は病変の深さで止まり、奥に突き抜けない
「今後は、高齢の患者さんが増加すると思われ

「今後は、高齢の患者さんが増加すると思われ
「今後は、高齢の患者さんが増加すると思われ

「今後は、高齢の患者さんが増加すると思われ
「今後は、高齢の患者さんが増加すると思われ

「今後は、高齢の患者さんが増加すると思われ
「今後は、高齢の患者さんが増加すると思われ



一般財団法人 津山慈風会
総院長
藤木 茂篤

岡山大学との共同運用で 成果を世界に発信

同院の陽子線治療のもう一つの特徴は、岡山大学と共同運用としたことにある。その意味について、脇先生は、「陽子線治療に関する臨床データはまだ十分とはいえませんが、現時点では保険適用外(※)の先進医療という位置づけです。岡山大学

「今後は、高齢の患者さんが増加すると思われ
「今後は、高齢の患者さんが増加すると思われ



POWER UP 3

- 陽子線治療センター
- OPE室
- 新病棟
- 新エネルギー棟
- リハビリ充実
- ユーティリティ充実
- パーキング拡張

日本に誇れる 医療サービス空間の構築

津山慈風会の上記Visionを達成するための平成26年度を初年度とした3カ年計画。現在の健康増進施設・健診施設・急性期施設・救命救急センターの機能を強化し、更にがん陽子線治療施設、ハイブリッド手術室等の手術室増設、新病棟、新エネルギー棟、リハビリ充実、ユーティリティ充実、駐車場充実を図るものである。

医療で地域の活性化にも貢献

私も、2020年までに達成すべきビジョンとして「日本に誇れる医療サービス空間の構築」を掲げ、地域のみなさまが安心して暮らせる医療の提供に取り組んでいます。その第一の要となるのが救急医療です。当院では、救命救急センターを20床から30床へと拡大、センター専属の医師3名を含む10名以上の医師を配置して、365日24時間対応により年間約5000台の救急搬送を受け入れています。もう一つの要は、がん診療です。当院では、地域のみならず身近な場所です。当院では、高度急性期医療を牽引する一大医療基地となるに違ひありません。そして、雇用促進や地域経済の活性化にもつながります。医療の提供と地域の活性化、この両面で、今後も貢献していきたいと考えています。

「今後は、高齢の患者さんが増加すると思われ
「今後は、高齢の患者さんが増加すると思われ

「今後は、高齢の患者さんが増加すると思われ
「今後は、高齢の患者さんが増加すると思われ